

♪プログラム・ノート

♪ハイドンの主題による変奏曲 変ロ長調 op.56a

ブラームスは1870年に、友人でウィーン楽友協会の司書、カール・フェルディナント・ポールから、当時はハイドン作とされていた《ディベルティメント Hob.II.46》の写譜を示され、その第2楽章は「聖アントニウスのコラール」と題されました。ブラームスが変奏曲の主題に用いたのがこのメロディーです。

近年の研究によって、ディベルティメントそのものがハイドン作でないか（イグナツ・プライエル作という説がある）、仮にハイドン作であっても主題であるコラールはハイドン作のものではなく、古くからある贊美歌の旋律を引用したものと考えられているため、最近は《聖アントニウスのコラールによる変奏曲》と呼ばれることが多いが、一般には《ハイドン変奏曲》との呼称が定着しています。

主題：Andante 変ロ長調。序奏はなく10小節単位の楽節構造が特徴的な主題で始まる。

第1変奏：Poco piu animato 変ロ長調。弦を中心で、対位法的な進行を見せる。

第2変奏：Piu vivace 変ロ短調。木管が付点リズムの特徴的なメロディを奏てる。

第3変奏：Con moto 変ロ長調。やはり木管が中心だが、のびやかである。

第4変奏：Andante con moto 変ロ短調。オーボエとホルンのゆったりしたメロディが、二重対位法で進行する。

第5変奏：Vivace 変ロ長調。スケルツォ風の軽快な変奏。

第6変奏：Vivace 変ロ長調。ピッキカートの上で、ホルンとファゴットがリズミカルにメロディを奏てる。

第7変奏：Grazioso 変ロ長調。フルートの哀愁漂うメロディを、弦が引き継ぐ。

第8変奏：Presto non troppo 変ロ短調。不気味な響きの弱音弦の上に、木管が陰鬱な調べを乗せる。非常に不満足な形で終止して終曲に続く。

終曲：Andante 変ロ長調。壮麗なパッサカリアで、これ自体がバッソ・オスティナートによる一種の変奏曲である。

コラール主題を引き継いだ5小節単位のパッサカリア主題は19回変奏され、クライマックスでコラール主題が再呈示される。

♪トランペット協奏曲 変ホ長調 Hob.VIIe:1

ハイドンの長年にわたる友人アントン・ヴァイディンガーのために作曲されました。ヴァイディンガーは、すべての音域で半音階を演奏できるような有鍵トランペットの発明者で、それ以前のトランペットは通常ヴァルヴもなく、唇の圧力を変えることで辛うじて自然倍音を出せるにすぎなかったのです。ヨハン・ネポムク・ファンメルもヴァイディンガーの有鍵トランペットのためにトランペット協奏曲を作曲しています。ハイドンのこの協奏曲は、彼が一連の交響曲、弦楽四重奏曲などの大作をほとんど書き終え、オラトリオやミサなどに取り組んでいた晩年の作品の一つであり、最後に作曲された協奏曲でもあります。

♪交響曲第104番ニ長調 Hob.I:104

ハイドンが作曲した最後の交響曲です。ハイドンはその晩年に2度ロンドンを訪問しています。そのいずれも名バイオリニストのザロモンという人に招かれてハイドンが自作の交響曲をロンドンで指揮するためでした。ザロモンはロンドンでザロモンコンサートという音楽会を企画しており、以前から尊敬していたハイドンに説得を重ね、ついに2度のロンドン行きを実現させます。

その2度目のロンドン旅行で作曲されたのが99番～104番で「ザロモンセット」と呼ばれており、その最後に作曲されたのがこの104番です。

そのロンドン旅行の帰りにドイツのボンに立ち寄ったハイドンがベートーヴェンに会い、これがきっかけでベートーヴェンがウィーンに出てきたというのは有名なお話です。

第1楽章：Adagio – Allegro ニ短調、4/4拍子 - ニ長調、2/2拍子。序奏付きのソナタ形式。

第2楽章：Andante ト長調、2/4拍子。変奏曲形式。

第3楽章：Menuetto、Allegro ニ長調、3/4拍子。メヌエットとトリオの複合三部形式。

第4楽章：Finale、Spiritoso ニ長調、2/2拍子。ソナタ形式。民謡風の主題で始まる。これはクロアチア民謡に基づくといわれている。



2015年10月10日(土)

開演 14:00 開場 13:30

横浜市神奈川区民文化センター

(かなづくホール)



♪横浜ゾリストン～コンサートミストレス・ソリスト

PROGRAM

ブラームス ハイドンの主題による変奏曲 変ロ長調

ハイドン トランペット協奏曲 変ホ長調(トランペット:金城和美)

～休憩～

ハイドン 交響曲第104番「ロンドン」ニ長調



田島 華乃(コンサートミストレス)

3歳半よりピアノ、4歳よりヴァイオリンを始める。桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)を経て、桐朋学園大学音楽学部を卒業。ザルツブルク音楽祭で、E・シュミーダークラス受講。ファイナルコンサートに出演。別府アルゲリッチ音楽祭に出演。

第44回小野アンナ記念会に出演。全日本芸術音楽コンクール第二位。室内楽や都内オーケストラで演奏活動中。音の家 otonoya 代表(<http://otonoya.jimdo.com/>)。



本日はご多忙の折、横浜ゾリストン～指揮者のいないオーケストラ～2015年秋公演にご来場ください誠にありがとうございます。横浜ゾリストンを代表し厚く御礼申し上げます。

横浜ゾリストンは2009年秋に結成されたプロフェッショナル・オーケストラです。同年11月にベートーヴェン「運命」でデビュー以降、すでに公演活動を14回重ね、常にアンサンブル重視の演奏活動を続けています。

さて、本日は古典派を代表するオーストリアの作曲家、フランツ・ヨーゼフ・ハイドンに因むプログラムです。今まで磨き上げてきた私どものアンサンブルをお楽しみいただければ幸いです。横浜ゾリストンは、今後も高度なアンサンブルによる質の高い音楽をお届けできるよう、今後も取り組んでまいります。引き続きよろしくお願い申し上げます。

なお、次回公演は2016年6月26日(日)、鎌倉芸術館小ホールにて「第4回ジュニアとの協演」公演を開催いたします。合わせてよろしくお願ひいたします。

横浜ゾリストン事務局長 住田英二



金城 和美(ソロトランペット)

沖縄県出身。沖縄県立芸術大学音楽学部器楽専攻管打楽コースを卒業。東京藝術大学音楽学部別科器楽専攻を修了。トランペットを津堅直弘・祖堅方正・杉木峯夫・大隅雅人の各氏に師事。室内楽を祖堅方正・宇佐美俊剛・杉木峯夫・守山光三の各氏に師事。2001年、第7回おきでんシュガーホール新人演奏会オーディションで入選を受賞。現在は、関東を中心に在京オーケストラでエキストラとして出演者する。2006年より古楽器での演奏活動も行っている。演奏活動のみならず、関東の中学校～大学、一般のトランペット指導も行っている。

♪横浜ゾリストン～メンバー

♪ヴァイオリン	: 田島 華乃 松田 彩 井神 麻友子 武石 侑子 松谷 萌江 岩谷 明石 宮田百合子
♪ヴィオラ	: 藤原 有希 安藤 朋子 山崎 愛
♪チェロ	: 関口 将史 和田 理
♪コントラバス	: 宮田 周介 浅田 真亮
♪フルート	: 長崎 亜星 小津 まゆみ 高橋 有紀
♪オーボエ	: 中山 達也 島田 日奈子
♪クラリネット	: 宮前 和美 池上 美香
♪ファゴット	: 河崎 聰 坪谷 陸 深山 智哉
♪ホルン	: 大出 佳子 越取 浩一 大平 紹美 仙田 絵己子
♪トランペット	: 金城 和美 原 育海 東里 千春
♪ティンパニ	: 松本 英之
♪パーカッション	: 長谷川 剛士